

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年 6月 18日

福井県知事 殿

提出者

住所 福井県越前市矢船町1-7-1

氏名 株式会社 ふじや食品  
代表取締役社長 白崎 弘康

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0778-23-0524

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称 株式会社 ふじや食品 武生工場

事業場の所在地 福井県越前市矢船町1-7-1

計画期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類 E09 (食料品製造業)

②事業の規模 45億円

③従業員数 350人

④産業廃棄物の一連の処理の工程

○動植物性残渣(卵の殻等) 処理業者へ委託肥料として再資源化  
○廃プラスチック類 処理業者に委託固形燃料としての再資源化  
○汚泥植物性残渣と同様処理業者に委託肥料として再資源化

(日本産業規格 A列4番)

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

○ I S O 推進委員会を設置

廃棄物の発生抑制、再生、適正処理等を計画的に進める上で必要な事項を検討する。

- ・委員長：環境管理責任者（製造担当取締役専務）
- ・構成委員 工場長、第一製造課長、第二製造課長、他 品質管理、企画等含む I S O 委員計18名

環境管理責任者:専務(委員長)



工場長(廃棄物統括責任者)



ISO環境事務局(環境監視、コンプライアンス監)



環境管理担当者(廃棄物管理)

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	別紙のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) (1) 工場長を中心に、各現場ごとに毎月目標を設け、製品廃棄物の発生原因を追求、改善し抑制を図った。(廃棄物削減に効果大) (2) 食品廃棄物で使えるものは再利用し、減量化を図った。 (3) 食品廃棄物の大部分を豚の餌として有償化。廃棄物減量を図った。 (4) 商品開発と資材が連携し、廃プラ発生抑制に取り組んだ。 (5) 生産過程で発生する廃プラの有償化、再生化に取り組んだ。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	別紙のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) ・①ミスによる製品廃棄物を作らない ②再利用できるものは捨てない等の方針を更に推進し、廃棄物抑制を図る。 ・歩留まり率の維持、改善を図る。 ・動植物性残渣の減量化に取り組む。 ・廃棄物(廃プラ)の有償化・再生化を推進する。 ・汚泥の削減を推進する。		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ①動物性残渣(卵殻) ②廃プラ類(3種に細分類) ③有機汚泥等の分類を行い、他の廃棄物が混入しないよう保管している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 引き続き、汚れた廃プラ類を再分類、洗浄等することで、再資源化できるものと焼却分の分別化に取り組む。有償化も図る。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
(これまでに実施した取組) 動植物性残渣（汚泥）を腐植土等で削減し、これを脱水した。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
(今後実施する予定の取組) 引き続き、動植物性残渣（汚泥）を酵素等で減量化することに取り組む。			

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	別紙のとおり	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙のとおり	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙のとおり	t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙のとおり	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙のとおり	t
	(これまでに実施した取組) ①動植物性残渣を飼料化・肥料化（再資源化）する業者に処理依頼している。 ②廃プラを固形燃料化している業者に処理委託している。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	別紙のとおり	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	別紙のとおり	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	別紙のとおり	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	別紙のとおり	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	別紙のとおり	t
(今後実施する予定の取組)			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

R5年度実績値及びR6年度目標値

排出・処理の 区分	廃プラスチック類		動植物性残渣		污泥	
	実績[t] (R5年度)	目標[t] (R6年度)	実績[t] (R5年度)	目標[t] (R6年度)	実績[t] (R5年度)	目標[t] (R6年度)
排出量	187	169	346	311	1,030	927
自己再生利用量	0	0	0	0	0	0
自己熱回収量	0	0	0	0	0	0
自己中間処理減量化量	0	0	0	0	969	872
自己埋立処分又は海洋投入処分量	0	0	0	0	0	0
全処理委託量	187	169	346	311	61	55
優良認定処理業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0
再生利用業者への処理 委託量	0	0	346	311	61	55
認定熱回収業者への処 理委託量	0	0	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0